

## マリオさんと学習して

大分県 大田小学校 5年 宇田 梓紗

わたしの学校に、地域で仕事をしているマリオさんという人が来てくださることになりました。マリオさんという名前を聞いて、わたしは、外国の人が来て、外国語の勉強を教えてくださいませんかと思いました。

ランチルームで待っていると、マリオさんが入ってきました。肌の色が少し濃くて、背がとても高い男の人でした。やっぱり外国の人だと思いました。マリオさんは前に立つときいきなり、早口の英語であいさつをしたので、みんなびっくりして、思わず笑ってしまいました。明るくてやさしそうな感じがしました。でも、あとは日本語で話してくださったので、日本に住んでいるのだと思いました。

最初に、マリオさんはわたしたちに、

「ぼくは、どこの出身でしょう？」

とたずねられました。友達が、

「アメリカ。」

と言ったので、わたしもそうかなと思いました。でも、ちがっていました。みんなが、いろいろな国の名前を言いましたが、なかなか当たりませんでした。正解は、日本でした。ご両親がアメリカから日本に来て、マリオさんは日本で生まれて育ったそうです。

交流会をして、マリオさんはすごいなと思いました。マリオさんの両親やおじいちゃんおばあちゃんは、いろいろな国の人だからです。マリオさんも大きくなってアメリカに行き、英語や日本語も話せるからです。

お話の中で、わたしが大切だなと思ったことが二つあります。

一つ目は、人を見た目で判断してはいけないということです。わたしも、マリオさんを初めて見たとき、いろいろなことを考えました。でも、その後の話を聞いて、わたしたちと同じところがたくさんあるんだなあと思いました。

二つ目は、マリオさんが言っていた『地球人』という言葉です。マリオさんは、日本出身だけど、子どものときから、

「なにじんの？」

とよく聞かれて、なやんでいたそうです。それから、大人になって、

「地球人です。」

と答えることにしたと聞いて、わたしは、そういう答え方もあるんだなあとおどろきました。

質問タイムでは、マリオさんのことをもっとくわしく知ることができました。マリオさんがおっしゃっていたけれど、今日の話をつか忘れてしまっても、『地球人』ということは必ず覚えておきたいです。わたしたちも同じ『地球人』だから、『地球人』としてできることをしたいと思います。学校だったら、困っている友達に声をかけてあげるなど、小さなささやかなことでいいので、だれかのために何かできたらいいなあと思いました。

大人になったらいろいろな国に行ってみたいし、いろいろな国の人と仲良くなりたいです。